

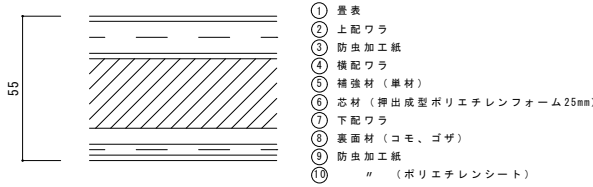
化学畳製作要領書

畳床

※ J I S A 5901に拠るポリスチレンフォームサンドウイッチ畳床（化学畳床）

・ J I S A 5914に拠る建材畳床（化学畳床）

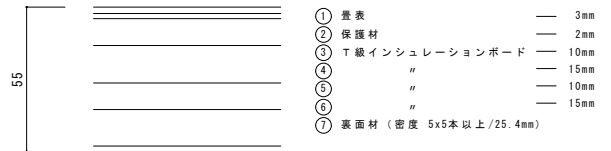
- (1) 芯材 J I S A 9511に拠る密度が0.027g/cm³以上で自己消火性のもの。
- (2) 縦横糸 糸間面積 12cm²以下。
化繊合織の上質のものとする。
- (3) 縫糸（床糸）
- (4) 床構成



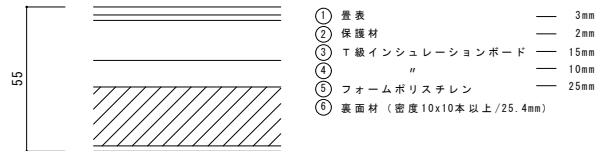
(図-1)

- (1) 芯材 J I S A 5905 T級インシュレーションボード。
J I S A 5911 フォームポリスチレン、密度が0.027g/cm³以上で自己消火性のもの。
- (2) 縦糸 13本通し、糸間面積 47cm²以下。
- (3) 縫糸（床糸）化繊合織の上質のものとする。
- (4) 保護材は不織布・保護紙とする。
- (5) 裏面材（防湿シート）はポリエチレンクロスとクラフト紙などを圧着したもの。
- (6) 床構成

・ I 型（ボードタイプ）



・ II 型（積層タイプ）



◎ III 型（サンドウイッチタイプ）



畳表

日本農林規格（J A S）に定める3種2等品のもの（1.40kg以上）

畳縁

化繊ベリ（山水ベリ、赤間ベリ、併に同等品以上とし、色合は見本品により決定）

見本

畳床、表、縁、縁下紙等は製作前に見本品を提出し監督員の承認を受けること。

刺付寸法

- 機械縫
- (1) 平刺 30mm
 - (2) 返し縫 35mm
 - (3) 框縫 45mm

仕上り厚さ

畳下地より敷居天端まで55mmとする。

コンクリートに直接敷く場合

返しわらはポリスチレン等防湿材を使用する。
框部分は布粘着テープ（巾50mm基準）を貼付する。

畳ごしらえ

畳ごしらえは、畳割りに正しく切合わせ、へり幅は、表2目（約30mm）を標準として、表の筋目通りよく、たるみ又はふくれなきよう上記の刺付寸法に合わせて縫い付ける。
また、畳床には手掛けを付ける。

敷込

敷居、畳寄せなど段違い、すき間、不陸等なきよう敷込むこと。

表示

1 表示の様式

- (1) 畳には、品質規格表示(図-2)をする。（全日本畳組合連合会で定めたもの）
- (2) 畳表には次の表示(図-1)をする。
- (3) 畳の敷方図と方書を表示する。

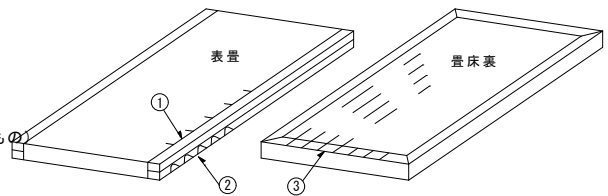
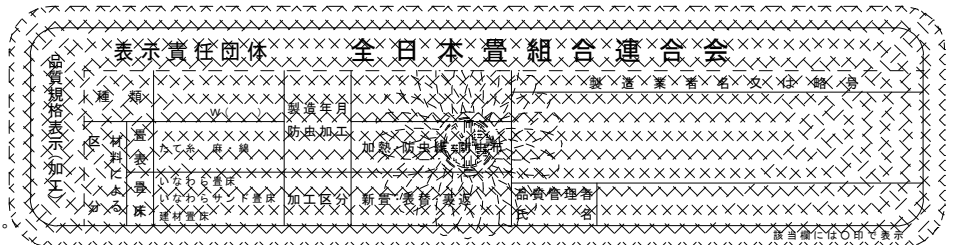


図-1



- ① Aは15mmとし、BはAの9/10とする。
- ② J A Sの文字の高さは、Aの3/10とする。
- ③ その他の文字の高さはAの1/6とする。
- ④ 検査員名については、記号、番号その他検査員を表す文字を記載することができる。
- ⑤ 格付機関名については、略称を記載することができる。
- ⑥ 検査員名及び格付機関名の記載の配列を入れ替えることができる。
- ⑦ 等級については、畳表の日本農林規格（昭和48年1月12日農林省告示第15号。以下「日本農林規格」という）に規定する表示の方法により記載する。

図-2



2 表示の方法

格付の都度、1枚ごとに、端止めから6cm以内であって、農林規格に規定する一括表示事項の表示に近接した箇所に付するものとする。